

音楽

児童生徒が自ら感性を働かせ、音楽活動によって生まれる 楽しさや喜びを実感する授業づくり

授業づくりのポイント

※数字は学習の例と対応

- ① 児童生徒の実態把握と十分な教材研究に基づいた題材や授業を構想する。
 - ・育成する資質・能力や思考・判断のよりどころとなる主な要素を明確にする。
 - ・目指す児童生徒の姿を具体的に想定する。
 - ・教師自身が実際に表現したり鑑賞したりするなどして教材曲の特徴を捉える。
- ② 音楽活動と言語活動を行き来しながら、表現の工夫や鑑賞を行う活動の充実を図る。
- ③ 曲全体の流れや曲の特徴を捉えることができるよう、聴覚だけでなく視覚を働かせたり、体を動かしたりする活動をねらいに応じて設定する。
- ④ 互いの気付きを共有し、感じ取ったことなどに共感しながら、児童生徒が自分の感じ方や考え方を広げたり深めたりする場を意図的に設定する。

互いの気付きを共有し、感じ取ったことなどに共感しながら曲のよさを実感する学習の例

小学校第6学年 題材名「曲想の変化を感じ取ろう」（全2時間）

教材曲：ハンガリー舞曲第5番 ブラームス作曲 シュメリング編曲

学習指導要領の内容：B鑑賞(1) ア、イ〔共通事項〕(1)

思考・判断のよりどころとなる主な要素：速度、調、反復、変化

題材の目標：

- (1) 「ハンガリー舞曲」の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解する。
- (2) 「ハンガリー舞曲」の速度、調、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く。
- (3) 速度や調の変化に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組み、曲想が変化する音楽に親しむ。

鑑賞の題材は、指導事項ア、イの両方を位置付けます。①

※鑑賞にウ(技能)はありません。

【曲全体を鑑賞し、題材の学習の見通しをもつ場面】

S1：曲の途中で速さが変わっているような気がしました。

T：曲のどの部分で速さが変わっているか、曲に合わせて指揮をしながら確かめてみましょう。

S1：同じ速さで指揮をしていたのに、合わなくなるところがありました。速さが変わっている部分が分かりました。

S2：もう一度聴いてみたら、はじめと終わりは暗い感じだけど、なかの部分は明るくて楽しい感じがしました。速さだけでなく、曲の部分によって雰囲気が変わるのも面白いと思いました。

T：なるほど。速さや曲の感じの変化に注目すると、この曲のよさを味わって聴くことができそうですね。気に入ったところや紹介したいところを見付けることができるように鑑賞しましょう。



曲想の変化を実感することができるように曲に合わせて指揮をしたり、歩いたりするなど、体を動かす活動を設定します。③

児童が必要感に応じて、聴きたい部分を繰り返し聴くためには、ICT端末を活用することが有効です。②

【気付いたことや感じ取ったことを紹介し、友達と交流する場面】

T：曲の感じが変わっているところについて、気付いたことや感じ取ったことを曲を聴いて確かめながら、友達と紹介し合ひましょう。

なかの部分について紹介しているグループの様子

S3：軽やかで楽しい感じだね。

S4：軽やかで楽しい感じだけど、ゆっくりなところもあったよ。

S5：ゆっくりなところはどんな感じかな。もう一度聴いてみようよ。

<速度が変わる部分を中心に鑑賞する>

S3：なるほど。急にゆっくりになっていて、ブレーキがかかったみたいだね。

S4：走ったり止まったりを繰り返しているみたいで面白いなあ。



聴き取ったことや感じ取ったことを伝え合い、特徴的な部分を聴いて確かめる場を設定します。また、他者の意見を聞いた後、自分の考えや感じ方を広げたり深めたりしたことを実感できるように、再度鑑賞する場を設定します。②

【個の発言について全体で共有し、共感する場面】

S1：なかの部分は明るい感じがして、聴いていて楽しくなりました。

S2：私も明るく感じました。調が変わったからだと思います。

T：S2さんは、調の違いに気付いたのですね。それぞれの部分の和音をピアノで弾いてみますので、みんなで聴いて確かめましょう。

<はじめ(短調)となか(長調)の和音を聴く>

S1：なるほど。両方の和音を比べて聴くと、違いが分かります。長調に変わったから、明るい感じになったことが分かりました。

T：では、その変化を確かめながら、曲全体を聴いてみましょう。

<曲全体を全員でもう一度鑑賞する>

児童自身が気に入ったところや他者に紹介したいところなどを見付けることができるよう、実際に聴いて曲のよさを実感できる活動を設定します。①

長調と短調の和音を比較して聴くことにより、それらが生み出す曲想の違いや変化を捉えることができるようにします。②

【題材のまとめの場面】

T：最後にもう一度曲全体を聴き、この曲のよさ、この曲について自分が気に入ったところや紹介したいところなどを伝える紹介文を書きましょう。

【紹介文の記述例】

この曲は、大きく三つの部分に分かれていて、はじめと同じ旋律が終わりにも出てきます。なかの部分は長調に変わって、明るく楽しい感じになっています。同じ曲なのに、途中で雰囲気ががらっと変わって面白いと思いました。また、なかの部分は、軽やかな感じから、急にブレーキがかかったみたいになるところが繰り返されます。走ったり、止まったりを繰り返しているみたいで気に入りました。変化を楽しみながら聴くことができるのがこの曲のよさだと思います。